



Cisco ボイスメール ポートの設定

Cisco ボイスメール サーバに関連したポートは、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用せずに、Cisco Unified Communications Manager データベースに追加したり、削除したりすることができます。Cisco ボイスメール ポートを設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「[Cisco ボイスメール ポートの設定値](#)」 (P.58-1)
- 「[Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化](#)」 (P.58-7)

Cisco ボイスメール ポートの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] メニュー パスを使用して、Cisco ボイスメール ポートを設定します。

オプションのソフトウェアである Cisco Unity または Cisco Unity Connection は、シスコ ユニファイド コミュニケーション ソリューションの一環として利用され、ユーザがコールに 응답できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。Cisco Unity Connection はユーザがコールに 응답できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。この章では Cisco ボイスメール ポートを追加、設定、更新、および削除する手順について説明します。この手順は Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ボイスメール (Voice Mail)] メニューから、[Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] を選択することによって実行できます。

Cisco Unity を設定する方法については、該当する『*Cisco Unified Communications Manager Integration Guide for Cisco Unity*』を参照してください。

ボイス メッセージと Cisco Unified Communications Manager との接続性の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性](#)」を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートの設定のヒント

Cisco ボイス メッセージ システムを Cisco Unified Communications Manager に接続するには、Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco ボイスメール ポートを追加する必要があります。



ヒント

新規 Cisco ボイスメール サーバとポートを追加したり、既存のサーバに複数のポートを追加するには、この項で説明されている手順の他に、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用することもできます。詳細については、「[Cisco ボイスメール ポート ウィザード](#)」 (P.59-1) を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートの削除のヒント

電話番号が使用している Cisco ボイスメール ポートを削除すると、番号は Cisco Unified Communications Manager データベース内に残ります。ボイスメール ポートを使用している電話番号を特定するには、[ボイスメールポートの設定 (Voice Mail Port Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

使用されているボイスメール ポートを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているボイスメール ポートを削除する前に、削除するボイスメール ポートを使用している電話番号すべてに別のボイスメール ポートを割り当ててください。「[電話番号の設定値](#)」(P.43-1) を参照してください。

ボイスメール ポートを削除した後で、そのボイスメール ポートを使用していた電話番号を削除できます。「[割り当てられていない電話番号の削除](#)」(P.46-3) を参照してください。



ヒント

[拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] メニュー オプションを使用する代わりに、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用して、既存のサーバからポートを削除できます。詳細については、「[Cisco ボイスメール ポート ウィザード](#)」(P.59-1) を参照してください。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能が説明されています。

設定値表

表 58-1 では、Cisco ボイスメール ポートの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.58-8) を参照してください。

表 58-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[ポート名 (Port Name)]	<p>Cisco ボイスメール ポートを識別する名前を入力します。Cisco ボイス メッセージ システム上でポートごとにデバイスを追加する必要があります。24 個のポートがある場合は、24 個のデバイスを定義する必要があります。</p> <p>[ポート名 (Port Name)] フィールドには 1 ~ 15 文字 (文字、数字、ピリオド、アンダースコア、ダッシュを含む) を入力できます。ただし、「-VI<ポート番号>」で終了する必要があります。</p> <p>(注) Cisco Unity では、この名前が CiscoUM-VI1 または Cisco UM-VI2 などの Unity Telephony Integration Manager (UTIM) の名前と一致している必要があります。Cisco Unity Connection では、この名前が Cisco UM-VI1 または Cisco UM-VI2 などの Cisco Unity Connection の管理と一致している必要があります。</p>
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。

表 58-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスプール (Device Pool)]	デフォルト値または特定のデバイス プールを選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	このデバイスを割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。詳細については、「 共通デバイス設定 」を参照してください。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、このデバイスからコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。登録者の番号およびネットワーク デバイスへのコールを可能にするコーリング サーチ スペースの名前を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリング サーチ スペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペースの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、コーリング サーチ スペース名の一部を入力します。表示されたコーリング サーチ スペースのリストで、指定したいコーリング サーチ スペースの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。

表 58-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアベイラビリティを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このボイスメール ポートに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このボイスメール ポートが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.15-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ボイスメール サーバ ポートに適用するセキュリティ モードを選択します。ここに表示されるオプションは、データベースであらかじめ定義されています。デフォルト値は [-- 選択されていません --] です。</p> <p>ボイスメール サーバのセキュリティを設定する方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 58-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳細な説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項、およびそのサブピックを参照してください。</p>
[電話番号情報 (Directory Number Information)]	
[電話番号 (Directory Number)]	このボイスメール ポートに関連する番号を入力します。このフィールドと [パーティション (Partition)] フィールドとの組み合わせが、固有のものであることを確認してください。

表 58-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パーティション (Partition)]	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、[<なし (None)>] を選択してください。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。「パーティションの検索 (パーティションが多数ある場合)」(P.40-4) の手順に従って、パーティション名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します。「コーリング サーチ スペースの設定値」(P.41-1) を参照。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display)]	<p>この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを指定します。</p>
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display, ASCII 形式)]	<p>この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを ASCII 形式で指定します。</p>

表 58-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[外線番号マスク (External Number Mask)]	<p>外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。デバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p> <p>自動代替ルーティング (AAR) が帯域幅不足のためにコールをルーティングする場合、余裕のある帯域幅を使用できなければ、Cisco Unified Communications Manager は、このフィールドの値を使用してコールを発信します。</p> <p>例</p> <p>DN 1000 (外部マスク 9728131000) は DN 1001 (外部マスク 2144131001) をコールします。帯域幅不足のためにコールがブロックされると、Cisco Unified Communications Manager は、AAR プレフィックス番号を 2144131001 と一緒に使用して 1001 にコールを発信します。</p>

追加情報

「関連項目」(P.58-8) を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスと設定を変更したボイスメール ポートを同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] の順に選択します。
[ボイスメール ポートの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するボイスメール ポートがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 影響を受けるデバイスと同期させるボイスメール ポートの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のボイスメール ポートをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.58-8) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco ボイスメール ポートの設定」 (P.58-1)
- 「Cisco ボイスメール ポートの設定値」 (P.58-1)
- 「Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化」 (P.58-7)
- 「Cisco ボイスメール ポート ウィザード」 (P.59-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」